

内田洋行？ 細井 清 会員

改めまして平成28年入会の細井です。本日は「内田洋行？」についてお話しさせていただきます。

内田洋行は1910年中国大連の満鉄への事務・設計機器の納入を起源としており、この3月で創業112年を迎えます。

中国側から見ると宗主の「内田という名前の外国人の店」との意味より「内田洋行」と名付けたものです。中国全土に7つの支店を構えるまでに至りましたが、敗戦により中国の権益を全て失ったのち、今日までどのようにその遺伝子を継いで、これから何をしていくのかについてご紹介したいと思います。

戦後直ぐの昭和21年に札幌支店を開設したが、売るのが無く、サッカリンなんかを売って糊口をしのぎながら、全国のお寺が軍の命令により釣り鐘を抛出して、不足していることに目を付け釣り鐘の販売で一息をつきながら、アメリカへの視察で油性ペンを持ち帰り、「マジックインキ」を開発して大ヒット、その後ケントKD型製図機、カシオリレー計算機、純国産オフコンUSAC、そしてスチール家具販売と事業を拡大していきました。

しかし、1980年代に「ネオダマの時代」と言われる「ネットワーク」「オープンシステム」「ダウンサイジング」「マルチメディア」の台頭により、オフコンやワープロはパソコンにとって代わり、ビジネスモデルが崩壊しつつあるとき、当時の教育機器事業

部が素早くICTへ舵を取り、パソコン教育システム「CAI-ACE」の全国展開により、公共ICT市場において大きくシェアを伸ばしました。それにより現在のICT主体の事業構造に転換しました。

また並行して、日本最大級の教育関係者向けセミナー&展示会であります「New Education Expo」を内田洋行が事務局として1996年より26年間継続して開催しており、当社最大の奉仕活動として今後も継続して行きます。

私は、有る意味地味で不器用なこの会社と共に、「働きかた改革」「学び方改革」「場と町創り改革」を、「情報の価値化と知の競争をデザインする」事により、その実現をしっかりとサポートしていく事をもう少し続けていく所存です。



1946年 札幌支店開設

